

ふれあい遊び研究会 活動報告

中山 正 剛

1. ふれあい遊び研究会の活動について

私たち「ふれあい遊び研究会」は、2019年度は「2年生30名、1年生13名（計43名）」で活動をしてきました。オペレッタ公演を中心に活動しており、今年度は3つのグループに分かれ、3種類のオペレッタを演じることができました。活動日、活動場所、活動内容については以下の通りです。

- (1) 活動日：毎週水曜日13:00から
- (2) 活動場所：441教室、3号館ホール
- (3) 活動内容：保育所・幼稚園・こども園でのオペレッタ公演、わくわくフェスティバルでの公演

2. 2019年度の主な活動スケジュールと活動内容

ふれあい遊び研究会の1年間の活動スケジュールと活動内容を以下に示します。

月日	活動内容
4/10	研究会紹介（その後、入会希望者歓迎会）
4/21	オープンキャンパスでのオペレッタ公演（はらぺこあおむし）
6/8, 9	新入生歓迎合宿（別府市少年自然の家 おじか）
7/3	めぐみ保育園オペレッタ公演（ともだちほしいなオオカミくん・はらぺこあおむし）
7/10	あおばこども園オペレッタ公演（クレヨンクロくん・はらぺこあおむし）

7/17	聖人保育園オペレッタ公演（ともだちほしいなオオカミくん・クレヨンクロくん）
8/8～23	すぎのこ幼稚園 夏休みお預かりボランティア
10/27	庄内厚生館ビッグフェスタでのボランティアとオペレッタ公演
11/13	わくわくフェスティバルでのオペレッタ公演（クレヨンクロくん）

3. 公演の流れ

主な公演の流れを以下に示します。

5分	はじめの言葉、導入（手遊び）
20分	【オペレッタ1】
5分	手遊び
20分	【オペレッタ2】
5分	おわりの言葉

4. 今年度の活動を振り返って

(1) 幹部の感想

・私はふれあい遊び研究会を通して、特に積極性や協調性が成長できたと実感しています。積極性に関しては、私は幹部として自ら意見を出したり、ひとつの公演を成功させるためにみんなをまとめたりすることができるようになったと思うからです。今までの自分なら、人の意見に合わせるだけでしたが、みんなをまとめる立場になった時、「それではいけない」と思い、変わることができました。何事も挑戦することの大切さを学びました。



また、協調性に関しては、1,2年生で力を合わせて一つのオペレッタを作るということができたからです。お互いに意見を出し合い、どうしたら子どもたちにより良いオペレッタを届けることができるかどうかを相談し、その結果最高の公演ができたのではないかと思います。何より、子どもたちの笑顔を見たときの達成感は言葉では表せられないほど嬉しかったです。2年間ふれ研で学んだ多くのことをこれから保育者として生かしていこうと思います。

- ・私は、この2年間の研究会活動で沢山の保育園に行き、色々なオペレッタを子どもたちの前で披露することができました。最初のころは、セリフを言うのが恥ずかしかったり、声が小さかったりと、うまくいかないことが

多々ありましたが、回数を重ねる中で、子どもたちが素直に楽しんでいる姿や、保育園の先生方から感謝の言葉をいただいたりする中で、だんだんと自信になり、楽しくなってきました。2年間の研究会を通して、あらためて子どもたちが好きなんだということを実感し、先輩や仲間とのつながりができたことで、「研究会に入って良かった」と思いました。保育者になっても、この経験を活かし頑張っていこうと思います。

- ・ふれ研の活動を通して、みんなと意見を出し合いながら協力し、どんなオペレッタにするかを考え、道具を一から作ったり、セリフをアレンジしたりしながら、どうしたら子どもたちが楽しんでくれるかを考えて工夫できたことが、とても良い学びになったと思います。

(2) 顧問より

学生たちが能動的に活動し、同学年や先輩、後輩などと協力して、正解がない中で、色々と工夫する経験ができたことが何よりの学びだと思います。また、公演をする際に「どうやったら子どもたちが楽しんでくれるのか」を考えて、実際に子どもたちの前で演じ、反省して次に生かすようなことが現場でできたのは大きな収穫だったのではないのでしょうか。ぜひ、この経験を現場で生かしてほしいと思います。

